

初等小學

修身篇

石川鴻齋編輯

二

4
50
75

大日本教育書會館			
一八函	三架	四三號	五册

東 一

匣一 身一 册

K110,1
10
乙

石川鴻齋編輯

初等
小學
脩身篇

東京

龍雲堂藏

小學脩身篇卷二

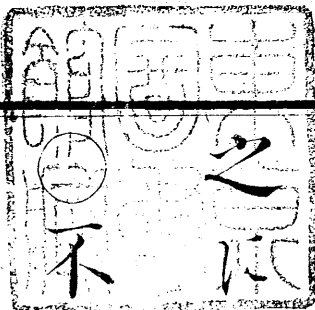
初等第二年前期

石川鴻齋編

○上帝常あらば善を作せし

之に百祥を降し、尚書

不善を作せし之に百殃を



小學脩身篇卷二

降す

同

○悪の小あるを以て、之を爲

すこと勿れ、昭烈帝

○善の小あるを以て、爲ざる

こと勿れ、同

○積善の家には、必も餘慶あ

り、周易

○積不善の家には、必も餘殃

あり、同

○忠信を主として、己に如か

ざる者を友とすること無れ

孔子

○過ちての改むるに憚るこ

と勿れ、同

○善に習へば日々に樂しむ

五常訓

○惡に倣へば日々に苦しむ

同上

○惡にハ趣き易し故に懼る

し、同

善にの進み難し、故に勉む

べし、同

○善を見ての則ち遷り、過ち

あれが則ち改む 周易

○志正しきの萬事の本あり、

童子訓

○邪に曲める事を行ふべし

らび、同

○乖僻を自ら是とすれば、悔

誤必ぞ多し、治家格言

○勢を恃みて孤寡を陵ぐこ
と母れ同

○一言偽を言へが萬言皆偽
とある、倭論語

○人の心信實あるは萬事の

基よりて人に交わるの道か

り、五常訓

○心を立つるに、忠信より

て欺かざるを以て本と胡文定

○己が欲せざる所、人に施

すこと勿れ、孔子

○常に人に謙りて、吾身を誇

るべからば、文訓

○禍福門あり唯人の招く所

あり、古傳

○酒食を過ごす、病を生む

るの本あり、大和俗訓

○言を慎まざる、禍の本あり、同

り、同

○思案せざる、過の本あり

同

○私欲深きハ、身を殺すの本

あり、同

○怒を堪へざるハ、争の本

あり、同

○儉約あらざるハ、困窮の本

あり、同

○我身の慾を縦まゝにする

より大なる禍ハあり、同

○人の非を譏るより大なる

悪のあり、同

○勤むる人の必を富む慎む

人の必を禍あり、同

○小兒の輩戯れ多く言ふべ

うらば、人の怒を來に、童子訓

○人の嫌ふ事言ふべうらば

人に怒り譏らきて益あり、同

○人を損して己を利するこ

と勿れ、朱子家訓

○人悪あれば則ち之を掩ふ

同

○人善あれば則ち之を揚ぐ

同

○人の能くする所を嫉むこ

と勿れ、畜徳録

○人の能くせざる所を形を

以こと勿れ、同

○心を養ふは寡欲より善き

の莫し、孟子

○纒に放肆おれば則ち日に

曠蕩に就く、程伊川

○自ら檢束すれば、則ち規矩

に就く、同

○智者の言を慎み、行を慎み

て、身の福をおす、賈誼新書

○愚者の言を易く言ひ、易く行ひ

て、身の蓄をおす、同

○心を平より、氣を和ぐるの

これ身を養ひ、徳を養ふなり、

慎思録

○人の私語を見て、耳を傾けて竊に聴くこと勿れ、願體集

○人の私室に入りて、目を側て、傍觀すること勿れ、同

○君子は人の美を成す、人の

惡を成さば、小人は是に反す、

孔子

○惡少に狎睡すれば、久あ

て必ぞ其累を受く、治家格言

○人喜慶あるに、妒嫉の心を

生むべうららび同

○人禍患あるに、喜幸の心を

生むべうららび同

○善人の見んことを欲す

るは、是れ眞の善ふらび同

○悪人の知らんことを恐

るは、便ち是れ大悪あり同

○自ら敬すれば、人も亦己を

敬以、讀書録

○自ら慢すれば、人も亦己を

慢す、同

○人の過の、吾が心に之を知るとも、妄に口に出すべから

び、大和俗訓

○朝早く起くるの、家の榮ゆ

る兆あり、同

○晏く起くるの、家の衰ふる

基あり、同

○光陰の惜むべし、諸を逝水に譬ふ、顔之推

○人の錯さる處を見て、時々我身を省みるべし。程大純

○人に施しては、念ふこと勿

れ。世範

○施を受けては、忘るること

勿れ。同

○人一たび遊惰の念を生じ

れば、其心蕩して學退く。省侃言録

○人の常に仁心を存して、日

々に人に利益あることを行

ふべし、五常訓

○人中よて、我に無禮を行ひ、

悪口する者あらば、聞やざる

ふりして堪忍すべし、武訓

○我方より、人を侮りて悪

口すべからば、同

○言をば、必を信にすべし、假

初の少しある事にも、詐るべ

からば、大和俗訓

○我は人に勝るを誇るあり

れ、我に勝れる者還多し、紳瑜

○每日一の善事を知り、一の

善事を行ひて、小を積みて止

まざれば必を大に至る、童子訓

○一誠以て萬偽を消するに

足る、曹日川

○一敬以て千邪に敵はるに

足る、同

○人の善を見て、我も亦此

善あらんことを思ひ、之を學

善行の事
十一

び行ふべし、大和俗訓

○人の不善を見ては、我も亦
此不善ありやと身を顧み恐
まて、若し有らば改むべし、同
小學修身編卷二終

明治十五年九月四日版權免許
同年九月出版 定價金八錢

愛智縣平民

編輯人

石川鴻齋

芝區片門前二丁目十四番地

東京府士族

出版人 前田 圓

京橋區加賀町十八番地

初等小學

修身篇

石川鴻齋編輯

三

7
5
75

大日本教育會館			
函	四	一	東
一	三	八	五
架	號	函	一
號	册	架	一

K 110.1
10
3